農技第1693号 令和7年9月19日

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和7年度病害虫発生予察注意報 第5号を発表します。

シロイチモジョトウのフェロモントラップでの誘殺数が平年より多く推移しており、 圃場でも幼虫の発生が広く確認されています。圃場における発生状況に注意して、適切 な防除指導をお願いします。

令和7年度病害虫発生予察注意報 第5号 シロイチモジョトウの発生状況と防除対策について

1 対象作物 野菜類、花き類、豆類

2 病害虫名 シロイチモジョトウ

3 発生地域 県内全域

4 発生程度 多い

5 発生時期 9月中旬~10月下旬

- 6 発生状況と今後の発生について
- (1) 県内に設置しているシロイチモジョトウ用のフェロモントラップにおいて、6月 以降平年を上回る誘殺が認められ、病害虫発生予察注意報 第3号(8月7日発表) により注意喚起を行った。その後も誘殺数は依然として多く推移し、8月~9月上 旬の合計誘殺数は、加西市で平年の3.6倍、朝来市で同24.4倍、南あわじ市で同 2.3倍と、過去の調査と比較して1~2番目に多くなっている(図)。
- (2) 9月中旬に淡路地域で実施したねぎ圃場における調査では、本種の発生圃場率は 100% (10 圃場/10 圃場) と高かった。また、幼虫の寄生株率が 50%を超える甚発 生圃場も認めている。
- (3) 県内各地で、ねぎ、ピーマン、カーネーション、大豆栽培圃場で既に本種による 被害が認められている。また、たまねぎやレタスの育苗床における被害も認めら れている。
- (4) 気象庁の近畿地方の3か月予報(8月19日発表)によると、9~10月の気温は 平年より高く推移するとされている。本種の活動に好適な条件が続き、幼虫によ

る被害が発生する恐れがある。近年、秋期にも気温が高く推移する傾向にあり、 昨年のように 10 月以降も本種の発生が収まらず(図)、被害の発生が長期化する ことが懸念される。

7 防除上の留意点

- (1) 本種は広食性で、加害作物は、ねぎ、たまねぎ、はくさい、ピーマン等の野菜類から、カーネーション、きく、トルコギキョウ等の花き類、大豆、あずき等の豆類と広範囲におよぶ(写真1)
- (2) 卵は鱗毛で覆われた卵塊で産み付けられ(写真2)、孵化直後の若齢幼虫は集団で加害する(写真3)。卵塊や分散前の若齢幼虫の早期発見に努め、速やかに捕殺する。
- (3) 成虫の産卵防止対策には防虫ネット(目合4mm以下)、黄色防蝋灯、性フェロモン剤(交信かく乱剤)の利用が有効である。
- (4) 近年、秋冬野菜の育苗期や定植直後の被害が増加傾向にある。育苗期には粒剤や水和剤の潅注処理による予防的な防除を心がける。本圃への定植後も被害の発生に注意して観察し、幼虫の発生が認められたら速やかに薬剤散布を行う。
- (5) 中・老齢幼虫(写真4)には殺虫剤の効果が低くなるので、薬剤防除は若齢幼虫期に行う。本種は全国的に薬剤抵抗性の発達事例が多く報告されており、本県でも一部の薬剤で殺虫効果が低い事例を認めているため、薬剤散布後も防除効果の確認に努める。
- (6) 薬剤散布を行う場合は、産地や地域における薬剤の使用実態を考慮しつつ、農作物病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

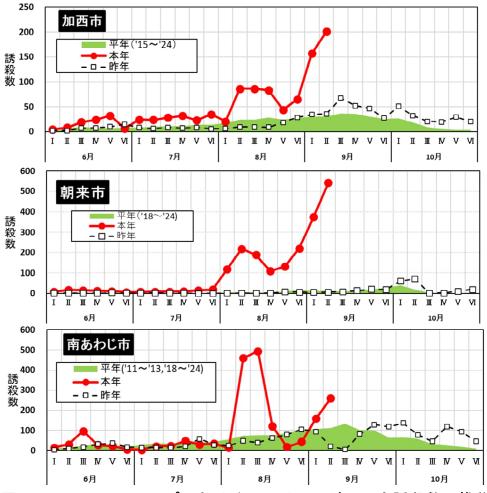


図 フェロモントラップにおけるシロイチモジョトウ誘殺数の推移



写真1 シロイチモジョトウによる被害



写真2 シロイチモジョトウの 卵塊と孵化直後の幼虫



写真3 若齢幼虫(集団で加害)





写真4 中・老齢幼虫(体色は黄緑色~黒褐色と多様)

- *この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。 https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp
- *農作物病害虫・雑草防除指導指針は以下のURLに掲載

https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo

*兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0 7 9 0 - 4 7 - 1 2 2 2

2022年3月1日より「兵庫県病害虫防除所」X(旧Twitter)を開設しています。

発生予察情報など病害虫に関する情報を速やかに提供しますので、 是非フォローお願いします。

Xアカウント (https://twitter.com/hyogo_boujosho)

